二〇一六年三月三〇日（参加者一三名 満願寺）

吟行子土手の土筆にうちかがみ　直子
落椿ここだうち敷く石畳　直子
紋黄蝶飛べ飛べ法の空高く　直子
幹よじれたる老木の花万朶　直子
落椿結界のごと参道に　小袖
大王松見上げる頬へ春の風　小袖
山寺の小流れを塞く落椿　小袖
山腹の観音様へ花の磴　菜々
春ともし趺坐大らかに金の弥陀　菜々
灯籠へしだれて千々の紅桜　菜々
観音の遠まなざしに春霞　よし子
花の寺堂縁借りてお弁当　よし子
おほかたは天を向きたる落椿　よし子
法の山抜きんでてをる竹の秋　ひかり
水神の禊の水面落椿　ひかり
花の寺俳人として逍遥す　宏虎
木々芽吹く古刹の庭に鬼瓦　宏虎
結界の解かれし寺庭すみれ咲く　有香
相聞のごと向きあふて落椿　有香
険磴のあはひあはひにすみれ咲く　明日香
捨畑に宝石のごといぬふぐり　ぽんこ
風光る一直線の参磴に　満天
踊るごと幹ねじれたる大桜　よう子
里のバス降り立てば草芳しき　わかば

吟行句会みのる選

二〇一六年三月三〇日（参加者一三名 満願寺）